

県内産窯業原料の活用による製品開発

— ポットカバーの試作研究 —

鷺野谷 昇*

1. 緒 言

より快適な生活空間・商業空間が求められる今日、フラワー市場は飛躍的な伸びをみせている。住宅の個性化・高級化志向に伴いインテリアを演出する「グリーン商品」は生活に潤いを与える重要なファクターとなり、ホームセンターや生花店頭等で鉢物(鉢に植えられている花)は年間通して販売されている。この様な背景をメ、まえ、今回は、真壁粘土特有の色合いを活かし、商品化を図るための試作およびテスト販売を試みた。

2. 内 容

試作するサイズを決めるに当たって、市場に出回っているプラスチック製植木鉢のサイズを調査した。その結果、素焼鉢では浅鉢・深鉢ともサイズの呼称に「号」を用い、その号数は昔からの尺・寸を基本寸法とした規格がある。これに対し、プラスチック鉢(以下プラ鉢)は、植えてある花の品種あるいはプラ鉢メーカーによりデザインやサイズ等にばらつきがあることがわかった。そこで、需要の多いプラ鉢10 種類の径および高さを測定し、各サイズの近似値をグルーピングした。

これにより、鉢カバー(ポットカバー)として使用するサイズはおおよそ3 種類で補うことが出来ると考え、真壁陶土器商工業協同組合の協力を得、大中小の3 タイプをメインに28 種を試作し、東京にて(池袋・渋谷の二ヶ所)発表展示会を開催した。

3. 結 言

今回の展示会で真壁粘土の持つ独特の色合いを活用したポットカバーに対し、多くの共感を得られた。現在、国内市場におけるポットカバーの素焼製品は外国製の大型製品と国内産の、ファニチャー的要素の強い小型の製品があるのみで、タイムリーな展示会であった。その後、産地への問い合わせが続く等、市場性の確認を得ると共に、産地の人達にとって大きな自信につながっている。

今後は、多様化ニーズへ対応する商品の提供として、ポットカバーに次ぐインテリア、エクステリア関連の商品開発を進める予定である。

今回の展示会に協力して戴いた株式会社西武百貨店にこの誌を借りてお礼申し上げます。